

Keeping Lake People Healthy

【病院における分煙対策】



地域生活看護学講座 教授（元喫煙対策推進委員会委員長）大矢 紀 昭



滋賀医科大学医学部附属病院では、建物内では全て禁煙となっております。屋外でも決められた喫煙コーナー以外ではタバコは一切禁止です。『何故だ?』『私にも吸う権利がある』『タバコの害は充分理解して吸っている』と言う人があります。タバコの害を知っていても、タバコを止められなければ、知らないのも同然です。癌、心筋梗塞、高血圧、脳卒中、閉塞性肺疾患、消化器疾患、歯周病などなど。しかも若い人ほど害を受けやすいのです。妊娠中や授乳中の喫煙による胎児や乳児への影響、赤ちゃんが不注意におかれたタバコを口にする事故も心配です。

タバコが健康に及ぼす数々の悪影響については1950年頃から言われ出しました。しかし、『自分で納得して吸っているのは本人の勝手である』という間違っただ理由から喫煙率は一向に下がりませんでした。タバコの煙害は吸っている本人が吸い込む主流煙よりむしろタバコの先端から出る副流煙の方がもっと有害であることが明白になり、吸わない人の受動喫煙が問題になってきました。

平成12年には国民健康づくり運動として“健康日本21”がスタートしました。生活習慣が関係して発症する生活習慣病を9つの分野で選定して各々の目標と対策を明示しています。ここでもタバコは重大な問題になっていますが、力強い援軍が出てきました。食生活、運動、飲酒、喫煙といった生活習慣を正し、健康増進を目的とした“健康増進法”が平成15年4月に施行されたのです。この中心は受動喫煙の防止で、公共の場や職場における分煙の完全実施、タバコに関する知識の普及です。分煙では鉄道、飛行機などに比して医療機関、大学での対策が遅れている点も指摘されています。『病気を治しに来られる病院』『医学を学ぶ医科大学』での分煙が不完全では恥ずかしいと考え、建物内全面禁煙としている次第です。分煙もままならぬ病院は医師の一人としてお奨めできません。

この機会に『禁煙したい』『禁煙しよう』と決意されましたら、本院「生活習慣病センター」禁煙指導外来(第2・4火曜日)までお気軽にご相談ください。



光学医療診療部における早期癌の内視鏡治療

光学医療診療部 助教授 齊藤 康晴



当診療部においては、平成16年5月1日より内視鏡的粘膜切開剥離法を導入し、積極的に消化管の早期癌に対する内視鏡下治療をおこなっています。以前の内視鏡的粘膜切除術に比較して、この方法の利点は、病変部を切除する際、その範囲は大きさも形も術者の思いのままに一括で切除できる点です。分割切除になってしまうと、病理学的検索が疎かになってしまう可能性があるからです。十分な切除標本の病理学的検討が可能になったために、適応も大きく拡大されました。胃癌であれば、隆起型で2cm以内、陥凹型で1cm以内とされていた適応が、粘膜内癌であれば大きさの制限がなくなりました。すなわち、どんな大きさでも粘膜内癌であれば内視鏡的な切除が可能になりました。また、以前は全く内視鏡下の摘出が不可能であった、癌病巣内に良性潰瘍癒痕をともなう症例でも、3cm以内であれば可能になりました。そして、高齢化社会をむかえ、他疾患を合併し開腹手術が危険であると判断された症例は、多少癌の浸潤がすすんでいても相対的適応とされます。

平成16年12月22日現在、52例を治療し、その内訳は食道6例(癌病巣:最大77×60mm、平均40×32mm)、胃41例(最大45×40mm、平均35×32mm)、大腸5例(最大50×35mm、平均33×29mm)です。当初はあまり症例が集まらず月4～5例程度でしたが、研究会などの呼びかけにより紹介患者さまが増加し、10月以後は月10例以上を治療しております。この症例数は京滋では最大級です。処置に時間がかかる欠点がありますが、静脈麻酔をかけるため患者さまには苦痛は全くありません。52例のうち3例は病理検査にて、リンパ節転移の可能性ありということで、後日胃切除を含んだ追加治療が必要になりましたが、他の49例は内視鏡的完全切除で経過良好です。

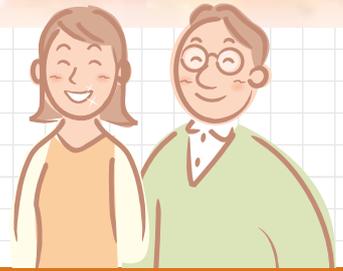
術後は、術翌日より水分開始し、2日目より食事可となり、病理結果がよければ約一週間で退院となります。今後この治療法が滋賀県下にひろく普及するように、術者の育成に努力したいと考えています。



光学医療診療部スタッフ



歯科口腔外科からのお知らせ



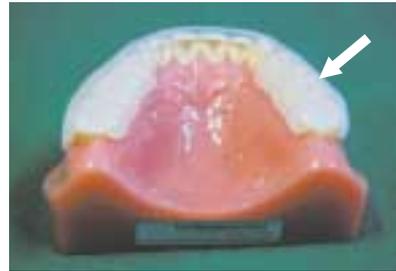
歯科口腔外科 助手 猪田 浩理

歯科口腔外科では診療活動分野の拡大に取り組んでいます。そこで今回は現在、重点的に取り組んでいる3点のプロジェクトについてご紹介します。

スポーツ用マウスガードの普及活動

各種スポーツ時に口のまわり、あごに衝撃が加わり、その結果、口腔内(歯、歯肉、顎の骨など)に外傷を起こすことがあります。当院にもスポーツ時に生じた口腔内の外傷のため多くの患者さまが受診、治療をされています。

マウスガードは口腔内を外傷から保護することを目的とする口腔内装置です。また、上下の歯が、正しくかみ合わさることで、より強い力がかむことができ、運動能力の向上が期待できます。当科では各人に合ったカスタムメイドのマウスガードを作製しておりますので、幅広くスポーツ選手や愛好家に普及させていきたいと考えています。



上顎用マウスガード

各診療日の担当者

(平成17年1月現在)

受診日	月	火	水	木	金
受付時間	午前8時30分～午前10時30分				
担当医	西川	猪田	通崎	片岡	坂本

デンタルサポート活動

歯科口腔外科では、入院患者さまを対象として“デンタルサポート活動”を開始しました。この活動は歯科的な診査方法や口腔衛生状態の改善を通して各部署の診療・看護活動の支援や口腔領域に起因する問題の解決にあたっていくものです。活動内容は歯性感染予防プログラム、口腔ケア活動、長期入院患者さまの歯科治療の3項目から成り立っています。

歯のホワイトニング

最近では歯においても審美的要素を求める傾向があります。そこで当科では歯のホワイトニングを診療に取り入れています。歯の白さは顔の表情を豊かにします。従来は歯の審美的問題を解決するためには歯を削ってセラミックを表面に貼り付けるなどの治療が必要でしたが、この治療法の導入によりその必要がなくなりました。白くしたい歯の表面に専用ペーストを塗布して治療効果を出していくために極めてストレスのかからない方法で自然な歯の白さを手に入れることができます。料金は治療用マウスガードが5,215円(税込)、各歯につき6,380円(税込)と価格設定をしていますので、例えば上顎の前歯部(6本)のホワイトニングでは43,495円(税込)となります。興味のある方は当科までご相談下さい。

料金は平成16年12月1日現在です。

これらの件についてのご質問は、歯科口腔外科外来(Tel:077-548-2583[土日祝日を除く9時～17時])までお願いいたします。

新潟県中越地震医療支援 “こころのケア”活動に参加



新潟県中越地震により被災された方々への医療支援として、「こころのケア」活動を11月12日から15日までの4日間、十日町市において行いました。先任の長野県精神病院協会チーム及び東京女子医大チームから引き継ぎを受け、後任の獨協医大チームへ引き継ぐまでの間、精神科神経科医師、臨床心理士、看護師、事務のチーム5名体制により、十日町保健所の相談員の方々と毎日打合せを行いながら、避難所など14カ所を巡回訪問しました。



巡回途中では、道路や地面に陥没や隆起した崩落が見られ地震の大きさが感じられました。さらに、連日の余震も被災された方々の大きな負担となっていました。各避難所では、不安や不眠の訴えが予想以上に多く、早めの介入で疾患への移行を防ぐことが重要と強く感じました。また、さまざまな段階のニーズに対し、医師、臨床心理士、看護師などそれぞれの職種の特徴を生かしながら、事務の方の協力を得ながら活動を行えたことは、有用でした。

被災地の皆様方に一日も早く平穏な日々が訪れますよう、心よりお祈り申し上げます。



滋賀医科大学「こころのケア」チーム

ゴミの不法投棄について

最近病院周辺へのゴミの不法投棄が多くなっており、先月も病院駐車場に大量の家庭用ゴミが不法に投棄されておりました(警察に通報済)。

また、病院を全館禁煙にしたことにより、たばこの吸い殻のポイ捨ても多くなってまいりました。

病院周辺の環境保全・美化推進のためにも、たばこの吸い殻、ゴミは所定の場所に分別の上、捨てていただきますようお願いいたします。

ゴミは身近な環境問題です。ゴミの不法投棄は大気や水、土壌を汚染し、環境を破壊し、同時に自然景観をも大きく損ないます。不法投棄をさせない、できない環境づくりに取り組んでいきましょう。



滋賀医科大学医学部附属病院 理念

「信頼と満足を追求する全人的医療」

理念を実現するための基本方針

患者さま本位の医療を実践します
信頼・安心・満足を与える病院を目指します
あたたかい心で最先端の医療を提供します
地域に密着した大学病院を目指します
世界に通用する医療人を育成します
健全な病院経営を目指します

滋賀医大病院ニュース第5号

編集・発行：滋賀医科大学広報委員会
〒520-2192 大津市瀬田月輪町
TEL: 077(548)2012(企画調整室)

過去の滋賀医大病院ニュース(PDF版)はホームページでご覧いただけます。